

講義科目名称：教育心理学

英文科目名称：Educational Psychology

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	2 年次	2 単位	必修	講義
担当教員				
森慶輔				
教職専門科目		高等学校教諭一種免許状(工業)	高等学校教諭一種免許状(情報)	中学校教諭一種免許状（技術）

授業概要	教育に関する現象は非常に広い範囲にわたっている。そのうち、発達、学習、教育評価、適応などについて心理学的に研究し、その成果を提供して教育の効率化適正化を図ろうとするのが教育心理学である。 この科目では、実際に学校教員となったときに身につけていなければならない基本的な事柄について学ぶ。		
授業計画	第1回	ガイダンス	
	第2回	記憶力がいいとはどういうことか 教科書の該当箇所を事前に読んでおく	
	第3回	学ぶことと考えること 教科書の該当箇所を事前に読んでおく	
	第4回	ほめることの大切さ 教科書の該当箇所を事前に読んでおく	
	第5回	「やる気」を考える 教科書の該当箇所を事前に読んでおく	
	第6回	学級という社会 教科書の該当箇所を事前に読んでおく	
	第7回	どのように教えるか（１）学習指導の形態と A I T 教科書の該当箇所を事前に読んでおく	
	第8回	どのように教えるか（２） I C T 教科書の該当箇所を事前に読んでおく	
	第9回	どのように教えるか（３）アクティブラーニング 教科書の該当箇所を事前に読んでおく	
	第10回	どのように教えるか（４）言語活動 教科書の該当箇所を事前に読んでおく	
	第11回	児童・生徒をどう評価するか（１）教育評価の基礎 教科書の該当箇所を事前に読んでおく	
	第12回	児童・生徒をどう評価するか（２）現行の教育評価の方法 教科書の該当箇所を事前に読んでおく	
	第13回	困難を抱える子どもたち（１）特殊教育と特別支援教育 教科書の該当箇所を事前に読んでおく	
	第14回	困難を抱える子どもたち（２）特別支援教育の実際 教科書の該当箇所を事前に読んでおく	
	第15回	まとめ	
準備学習の内容	授業計画に示した内容を準備しておく。（本科目は試行的に反転学習を導入予定のため、事前学習をしないと成績評価が下がるので留意されたい。）		
教育目標に対する 科目の位置付け	学習と発達についての基本的概念を獲得し、また教育現場において実際に必要となる評価や学級運営など具体的な教育課題遂行のための組織的・継続的指導と援助に関する知識と技能を習得する。		
教科書	鎌原雅彦、竹綱誠一郎「やさしい教育心理学 第4版（有斐閣アルマ）」有斐閣、2015年		
参考書	講義内で適宜紹介する		
評価基準及び成績 評価方法	1）授業への取り組み（50％）および期末試験（50％）により評価する。なお前者はグループワークへの参加態度、プレゼンテーションの内容を総合的に評価する。 2）科目の性質上、欠席や遅刻が目立つ、受講態度が芳しくないなど、教職を目指す上で不適格であると判断される場合は単位を認定しない。		
達成度の伝達及び 達成度評価	答案は迅速に返却する		
資格情報			
オフィスアワー			
備考	教職課程を履修する以上は、将来教職に就くことを真剣に考えた上で受講されたい。		
履修登録条件			

講義科目名称：教育基礎論

英文科目名称：Theory of Education Fundamentals

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	1 年次	2 単位	必修	講義
担当教員				
麻生千明				
教職専門科目		高等学校教諭一種免許状(工業)	高等学校教諭一種免許状(情報)	中学校教諭一種免許状（技術）

授業概要	教職の必修科目として、前半は、なぜ人間のみが教育が必要なのか、その根拠として「教育」の語義、人間の生物学的ユニークさなどの視点から考察する。後半は戦後・昭和22年に公布された「教育基本法」および平成18年に改正された現行「教育基本法」の内容を通して、戦後教育の理念と制度の特徴、その後、現代に至る日本の教育のさまざまな問題や課題について考察する。		
授業計画	第1回	第1章 なぜ人間のみが教育が必要な動物とされる理由をカントの『教育学』を通して考える。「教育」という言葉の意義、本能的存在（動物）と理性的存在（人間）。教科書2-8頁の部分をよく読み、要点と疑問点をまとめる。なぜ人間のみが教育が必要とされているのか考えてみる。	
	第2回	動物（特にチンパンジー）の学習行動やコミュニケーション。文字を理解するチンパンジー（アイとアユム）。教科書8-10頁の部分をよく読み、要点と疑問点をまとめる。人間と他の動物の学習、コミュニケーションについて考えてみよう。	
	第3回	第3節 野生児の教育・訓練。狼に育てられた少女（カマラとアマラ）の事例。野生児の事例を通して学ぶこと。教科書11-17頁の部分をよく読み、要点と疑問点をまとめる。野生児の事例を通して、人間が、もしも人間の環境のなかで育てられなかったらどうなるか考えてみよう。	
	第4回	第3節 人間の誕生時の無力・無能性。ルソーの教育思想（子どもの発見、消極教育論、内発的動機づけ）教科書18-22頁の部分をよく読み、要点と疑問点をまとめる。現代における学習の動機づけ（モチベーション）について考えてみよう。	
	第5回	人間のユニークさに関するアドルフ・ポルトマンの説（「一年早産説」）。現代日本における「青年期」の問題。教科書22-29頁の部分をよく読み、要点と疑問点をまとめる。現代の日本の青年、若者の自立の問題について考えてみよう。	
	第6回	第4節 人間のユニークさの中心は「直立歩行」。「ホモ・ファールベル」（道具の使用と製作）としての人間。教科書30-33頁の部分をよく読み、要点と疑問点をまとめる。人間の特徴である直立歩行の特徴（メリット）と弱点（疾病）について考えてみよう。	
	第7回	第5節 「ホモ・ルーデンス」（遊戯人）としての人間。文化の伝達と創造（教育）。人間の愚行・非行。テキスト34-38頁の部分をよく読み、要点と疑問点をまとめる。人間の特徴は創造性にあるが、そのことを裏付ける脳の仕組みと働きの特徴について考えてみよう。	
	第8回	第2章 戦後教育の原点・「教育基本法」の理念と制度。第1節 終戦直後の状況と「教育基本法」の制定。教科書40-45頁の部分をよく読み、終戦直後の状況と「教育基本法」が制定された経緯について要点をまとめよう。	
	第9回	第2節「教育基本法」の理念。前文と第一条の「個の尊重」をめぐる。教育の「機会均等」の理念と制度（第三条）。教科書46-56頁の部分をよく読み要点と疑問点をまとめる。現代の日本の子どもたちは自尊感情が低いと指摘されているが、その原因と対策について考えてみよう。	
	第10回	子どもの「受教育権」の保障（第四条）。定時制高校の制度化と今日に至る動向。教科書56-62頁の部分をよく読み要点と疑問点をまとめる。定時制高校の役割と動向、今日におけるパートタイムの学校の意義について考えてみよう。	
	第11回	男女共学の理念と制度（第五条）。近年における高校共学化の動向。ジェンダー・フリー教育。教科書62-67頁の部分をよく読み要点と疑問点をまとめる。男女共学と別学の是非について考えてみよう。ジェンダーフリー教育とは何か、理解しよう。	
	第12回	法規上の学校（第六条）、社会教育（第七条）、政治教育（第八条）、宗教教育（第九条）、教育行政（教育行政）。教科書67-75頁の部分をよく読み要点と疑問点をまとめる。「法規上の学校」とは何か。社会教育の意義と形態・方法についてまとめる。	
	第13回	第3章 第1節 「教育基本法」の改正（平成18年）。第2節 現代社会の状況・課題を反映した教育目的・目標（第二条）。公共の精神、道徳心、規範意識の強調。教科書78-88頁の部分をよく読み要点と疑問点をまとめる。戦後教育の反省と現代社会の課題を反映し、「教育基本法」がどう改正されたかについて理解する。	
	第14回	第2条 教育目標の分析。現代っ子の体格・体力・生活技能、生命尊重、環境倫理、国際化の中で異文化理解と日本の伝統文化理解の教育。教科書88-93頁の部分をよく読み要点と疑問点をまとめる。生命尊重、環境倫理、異文化理解と日本の伝統文化理解のために、具体的にどのような教育がなされているか考えてみよう。	
	第15回	第3節 高校・大学への進学率の急上昇と「生涯学習」の時代。教科書94-102頁の部分をよく読み要点と疑問点をまとめる。戦後の進学率上昇の背景要因、ポール・ラングランの「生涯教育」の理念・教育観についてまとめてみよう。。	
準備学習の内容			
教育目標に対する科目の位置付け	「教育基礎論」は本学が付与する工業高校の工業、情報の教員免許に必要な教職科目である。「教職論」とともに教職科目としては最初の1年次後期に配当されており、教職の必修科目であるから教員免許を取得しようと思う者は全員履修しなければならない。本科目は「教育基礎論」との名称に示されるように、教育とは何か、なぜ人間は教育が必要なのか、といった教育の本質や原理に関する科目である。2年次以降の教職科目、例えば教育課程論、特別活動の指導法、教育制度論、生徒指導論など、学校教育に関する各論の基礎にもなる。		
教科書	麻生千明著『現代日本の教育課題』霞出版社 その他、資料プリントを配布する		
参考書	適宜紹介する。		

評価基準及び成績 評価方法	試験で60点以上を合格とする。授業への出席状況、学習態度も参考にする。
達成度の伝達及び 達成度評価	試験の成績については最終評価を公表する。成績に疑問がある学生には答案を示して説明する。機会があれば試験の全体的な講評をおこなう。
資格情報	
オフィスアワー	
備考	
履修登録条件	

講義科目名称： 教職論

英文科目名称： Theory of Teachers

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	1 年次	2 単位	必修	講義
担当教員				
池守滋				
教職専門科目		高等学校教諭一種免許状(工業)	高等学校教諭一種免許状(情報)	中学校教諭一種免許状（技術）

授業概要	教師とは何か、教員の養成制度、職務の専門性を考える。また、実務としての教科指導、生徒指導、進路指導と服務規律について学ぶ。		
授業計画	第1回	教師とは 理想の教師像について話し合い、教職の職業的特徴を理解する。	
	第2回	教職の意義 学校教育の今日的課題や教職の社会的意義について理解する。	
	第3回	教員養成制度 教員養成制度と教育職員免許法について理解する。教員免許更新制度についても理解を深める。	
	第4回	教員の職務 教員の職務内容や服務上・身分上の義務について理解する。	
	第5回	「専門職」としての教師 専門職の要件と教師の役割及び求められる資質能力や教育理論について理解する。	
	第6回	教員の職務と法 教員の職務と服務規程など関係法令及び教員の種類について理解する。	
	第7回	教員の仕事と役割① 教科指導と学習指導案、主体的・対話的で深い学びを育む手法について理解する。	
	第8回	教員の仕事と役割② 学級経営について理解する。	
	第9回	教員の仕事と役割③ 生徒理解と生徒指導、教育相談について理解する。	
	第10回	教員の仕事と役割④ 進路指導と校務処理、部活動、保護者への対応などについて理解する。	
	第11回	学校の組織と学校経営 学校の職務と組織との関係や学校経営、カリキュラムマネジメントについて理解する。	
	第12回	チーム学校への対応 校内ばかりでなく外部の専門家とも協力して、様々な課題に対応する必要性について理解する。	
	第13回	教員の研修 教員研修の意義と制度について理解する。	
	第14回	学校種と教員の特性 幼稚園、小中高、特別支援の教員の特性と在り方について理解する。	
	第15回	新しい教育課題への対応 いじめ、不登校、中途退学や性同一性障害など様々な教育課題へ対応できるよう生涯に渡って学ぶ姿勢を忘れないことを理解する。	
準備学習の内容			
教育目標に対する科目の位置付け	高等学校の教員免許（工業・情報）取得に必要な教職科目で、1年後期に設けている必修科目である。本講は、教師の仕事とは何か、教師の職務内容、学校や教師をめぐる現状など教職についての基本的な理解を深め、学生の教職への意識と使命感を高める。		
教科書	教職問題研究会編：教職論[第2版]－教員を志すすべてのひとへー		
参考書	随時指示する。		
評価基準及び成績評価方法	課題レポートや試験で60点以上を合格とする。講義への出席状況、学習態度なども参考にする。		
達成度の伝達及び達成度評価	試験の成績を公表する。		
資格情報			
オフィスアワー	水曜日13：00～14：00 1号館5階研究室		
備考	「教職論」は、教職資格取得に必要な教職科目のひとつで、教職、学校の教師の仕事、教師のあり方など教職の基本について学ぶ科目である。教職をめざそう、あるいはまだ将来の職業がはっきりしていなくとも教職の資格を取得しようと思っている学生は積極的に受講して欲しい。		
履修登録条件			

講義科目名称：教育制度論

英文科目名称：Theory of Education Systems

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期	2 年次	2 単位	必修	講義
担当教員				
麻生千明				
教職専門科目		高等学校教諭一種免許状(工業)	高等学校教諭一種免許状(情報)	中学校教諭一種免許状（技術）

授業概要	第1次安倍晋三内閣において、「教育基本法」が全面的に改正され、その後矢継ぎ早に教育改革が断行されている。この動きをどう見るか、私たちににとって重要な問題である。 本講義では、まずわが国の古代から戦前にいたる各時代の学校について、主として制度史の観点から概観していく。次に戦後の教育理念と制度について「教育基本法」を中心に、機会均等、男女共学等をめぐる動向等について考え、そして戦後の六三三制の改革動向、中高一貫、小中一貫など学校間の接続・連携の問題、週5日制など学校制度をめぐる最近の動向と今後の課題について考察する。 なお、焦眉の社会問題となっている保育所についても言及したい。		
授業計画	第1回	オリエンテーション：広義の教育と狭義の教育 広義の教育（無意図的教育）と狭義の教育（意図的教育）とは何か、そして狭義の意図的教育において「制度」が問題となることを理解する。	
	第2回	日本の古代の学校制度 学校は文字文化の伝達機関として登場するが、日本で最初の学校である7世紀の大学寮について、どんな学校だったのか、入学対象や試験制度など、特に制度面について考える。	
	第3回	日本の中世の学校 日本の中世の足利学校、また武士の寺院での修学について、修学期間や学習の日課などについて考える。	
	第4回	日本の近世社会と学校制度 江戸時代は学校が発達した時代であるが、身分によって学校が異なる「複線型」制度であった。江戸時代の学校と明治以後、現代の学校の制度の相違について考える。	
	第5回	明治以後の近代学校制度の変遷 現代の学校にもつながる明治以後の近代学校の特徴、特に制度面の特徴について考える。	
	第6回	近代学校のもつ機能と役割 学校のもつ機能と役割について、特に統合機能と分化機能とは何か。それは具体的にどのような面にみられるか考えてみよう。特に制服・シンボル（校章・校歌など）・学校行事等に注目する。	
	第7回	「教育基本法」にみる戦後教育理念と制度 現在、教育の「機会均等」の原理を妨げている要因は何か、また戦後から現代に至るパートタイムの学校の役割について考える。	
	第8回	男女共学の精神と高校共学化の動向 戦後教育の特徴である男女共学の精神、共学と別学の是非について考える。またジェンダーフリー教育とは何か、理解を深めたい。	
	第9回	法規上の学校（戦後日本の学校） 法規上の学校とは何か、また高等専門学校、中等教育学校が登場した背景、学校段階ごとの目的について考える。	
	第10回	社会教育の奨励 学校教育と並んで戦後重視されるようになり、今日の生涯学習の時代に益々重要性を増している社会教育について、定義、形態と方法等について理解を深めたい。	
	第11回	生涯学習時代の到来 生涯学習の起源と定義から、まず考え始めたい。	
	第12回	中高一貫制度について 中高一貫制度の意図と問題点、成立当初の中高一貫学校の事例についてまとめ、その後今日に至る中高一貫校の設立状況等について考える。	
	第13回	小中一貫等学校間の連携 現代は中・高のみでなく幼小一貫・小中一貫、高大連携など、あらゆる学校間の連携が課題となっているが、その意図や背景について考える。	
	第14回	幼児教育について考える 今日、保育所問題が焦眉の課題となっている。その根源的意味を考える。	
	第15回	まとめ	
準備学習の内容	講義ごとに次回の課題を示す。		
教育目標に対する科目の位置付け	教職の必修科目である。意図的・計画的な教育において、どう教育するか、その教育の内容(教育課程)が「内的事項」と称されるのに対して、学校制度、学年制度、学級編成など外枠的部分は「外的事項」と称される。戦後六三三四制度が敷かれて半世紀以上経過したが、六三三制の改革や学校間の連携など課題が多い。本講では学校を中心に制度の変遷、現代の制度上の問題・課題について考察する。		
教科書	特に使用しない。		
参考書	麻生千明著『子どもと学校の歴史』霞出版社 岡本徹他著『現代の教育制度と経営』ミネルヴァ書房		
評価基準及び成績評価方法	試験もしくはレポート：70%、授業への取り組み姿勢:30%。		
達成度の伝達及び	試験もしくはレポートの結果については、機会があれば試験の講評、解説をおこなう。		

達成度評価	
資格情報	
オフィスアワー	非常勤講師という立場なので、講義の際に質問等を受け付ける。
備考	
履修登録条件	

講義科目名称：教育課程論

英文科目名称：Curriculum Management

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期	2 年次	2 単位	必修	講義
担当教員				
黒羽正見				
教職専門科目		高等学校教諭一種免許状(工業)	高等学校教諭一種免許状(情報)	中学校教諭一種免許状（技術）

授業概要	実際に教師の日常的職務活動の具体的場面に即して、教室レベルの教育課程経営の体験活動を通して、教育実践者としての「教育課程を経営する意味」のリアリティに接近する。		
授業計画	第1回	オリエンテーション：教育課程論の学び方と学ぶ上での核となる概念の説明 学び合い、自己認識、暗黙知、気づきと振り返り、自己更新、教師の成長	
	第2回	教育課程の基盤にあるもの ビデオ（みんな輝いているよ）視聴による教育課程の理解	
	第3回	学校教育における教育課程の現代的課題とその解決方法 1枚の折り紙から紡ぎ出される方法とは	
	第4回	教育課程に滲み出る教師の人間性 1編の生徒の詩から連想される教育課程の色	
	第5回	教育課程を円滑に機能させるもの 授業中の教室に教育課程が生み出すもの	
	第6回	教育課程の障害となるもの 学校内に生じるものと教室内に生じるもの	
	第7回	教育課程の障害物を取り払う方法 1枚のA 4 判の紙からWe-feelingを生み出そう	
	第8回	教室における教育課程の創造の仕方 学習指導案と略案・細案について	
	第9回	教育課程と生徒理解 教育課程におけるコミュニケーション方法	
	第10回	教育課程と評価 模擬授業と他者評価・自己評価	
	第11回	教育課程とカリキュラムの違い 国レベルから教室レベルに至るまでの学習指導要領の変容過程	
	第12回	教育課程の新しい方向 教育の計画・内容を機能させる教育課程経営のしくみについて	
	第13回	教育課程と教師の成長の関係 教育課程からカリキュラムをつくる意味	
	第14回	教育課程のさまざまな捉え方 顕在的カリキュラムと潜在的カリキュラム、教科カリキュラムと経験カリキュラム	
	第15回	まとめとしての教育課程をつくる 教育課程の方法・技術の基底に存在するもの（知識・技術に還元できぬもの）	
準備学習の内容			
教育目標に対する 科目の位置付け	動きのない紙面上の教育課程（計画・内容）から生徒との相互行為として「教師が教育課程をつくる」意味の理解を実践的に深める。		
教科書	山崎保寿・黒羽正見『教育課程の理論と実際』学陽書房		
参考書	稲垣応顕・黒羽正見編『学際型現代学校教育概論』金子書房		
評価基準及び成績 評価方法	毎時間の振り返りシート、レポート、出席状況、学習態度等を参考にする。		
達成度の伝達及び 達成度評価			
資格情報			
オフィスアワー			
備考			
履修登録条件			

講義科目名称：工業科教育法Ⅰ

英文科目名称：Technological Education Methods Ⅰ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期	3 年次	2 単位	必修	講義
担当教員				
池守滋				
教職専門科目		高等学校教諭一種免許状(工業)		

授業概要	教員の職務、特に工業科教員の職務について理解するとともに、工業教育の目標、学習指導要領、それにもとづいた教育課程の編成について学ぶ。その上に、工業教育の学習指導法、教材開発の方法、学習指導計画の作成について学ぶ。工業高校の教育について討議し、そのあり方を考える。		
授業計画	第1回	ガイダンス、学習指導要領と工業教育の目標	
	第2回	教育法規と工業教育の教員の職務	
	第3回	工業教育の成り立ち	
	第4回	教育課程・共通科目	
	第5回	教育課程・実験実習	
	第6回	小学科の教育課程と科目構成	
	第7回	教材分析	
	第8回	学習と授業の理論	
	第9回	教育評価	
	第10回	学習指導案（全案）の作成Ⅰ	
	第11回	学習指導案（略案）の作成Ⅱ	
	第12回	学習指導案（略案）の作成Ⅲ	
	第13回	模擬授業と相互評価Ⅰ	
	第14回	模擬授業と相互評価Ⅱ	
	第15回	いろいろな工業教育と職業教育まとめ、テスト	
準備学習の内容			
教育目標に対する科目の位置付け	工業教育の目標、意義、特質を理解する。さらに、教育の枠組みの基礎となる学習指導要領を理解し、教育課程の編成できる教師としての力量を高める。さらに、工業高校における学習指導の理論と実際について学び、教員として学習指導できる力量を修得する。		
教科書	文部科学省編：高等学校学習指導要領解説工業編（実教出版） 池守滋、佐藤弘幸、中村豊久：工業科教育法の研究（実教出版）		
参考書	適宜指示する。		
評価基準及び成績評価方法	課題レポートとペーパーテスト		
達成度の伝達及び達成度評価			
資格情報			
オフィスアワー			
備考			
履修登録条件			

講義科目名称：工業科教育法Ⅱ

英文科目名称：Technological Education Methods 2

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	3 年次	2 単位	選択	講義
担当教員				
池守滋				
教職専門科目		高等学校教諭一種免許状(工業)		

授業概要	教育改革と工業教育との関係、工業高校の教育課程、実習の学習指導計画の作成について学ぶ。また、実習装置の管理や安全作業、キャリア教育の視点及び職業訓練施設や世界の工業技術教育について学び、日本の工業高校の教育について理解を深める。		
授業計画	第 1 回	工業高校と職業訓練施設 工業高校・定時制高校・通信制高校及び職業訓練施設などについて理解を深める。	
	第 2 回	高校の教育改革 高校改革の動向と専門高校の再編について理解する。	
	第 3 回	我が国の教育改革と工業教育 国の教育改革の動きと工業教育について理解する。	
	第 4 回	諸外国の工業教育 諸外国の教育制度と職業教育について理解する。	
	第 5 回	教育法規と工業教育 教育基本法、学校教育法及び職業教育に関する関係法令について理解する。	
	第 6 回	工業高校の教育課程① 高等学校学習指導要領の共通教科と専門教科について理解する。	
	第 7 回	工業高校の教育課程② 工業科目の編成、小学科の種類と教育課程について理解する。	
	第 8 回	工業高校の教育課程③ 特色ある教育課程の編成及びその事例を通して理解する。	
	第 9 回	工業の学習指導 工業に適した学習指導方法について、演習を通して理解する。	
	第 1 0 回	工業の年間指導計画 工業の専門科目の年間指導計画の立て方と考え方について理解する。	
	第 1 1 回	実習と課題研究の指導① 実習の指導方法、資格について理解する。	
	第 1 2 回	実習と課題研究の指導② 課題研究の進め方について理解する。	
	第 1 3 回	実習装置の管理と安全作業 労働安全衛生法と学校、安全作業とヒヤリハットについて理解する。	
	第 1 4 回	キャリア教育と職業教育 キャリア教育の考え方と職業教育としての捉え方について理解する。	
	第 1 5 回	これからの工業教育と工業高校 工業高校での新しい取り組みや指導法などについて理解する。	
	準備学習の内容	高等学校学習指導要領解説工業編を精読しておくこと。	
教育目標に対する 科目の位置付け	工業高校における学習指導の理論と実際について学び、教員として学習指導できる力量を修得する。また、広く工業技術教育について学び、教師としての広い視野をもつ。		
教科書	池守滋、佐藤弘幸、中村豊久：工業科教育法の研究（実教出版） 文部科学省：高等学校学習指導要領解説 工業編		
参考書	適宜指示する。		
評価基準及び成績 評価方法	演習、課題レポート		
達成度の伝達及び 達成度評価	まとめレポートにて各自に示します。		
資格情報			
オフィスアワー	水曜日13：00～14：00 1号館5階の研究室にて		
備考			
履修登録条件			

講義科目名称： 情報科教育法 I

英文科目名称： Information Education Methods 1

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期	3 年次	2 単位	必修	講義
担当教員				
碓井健文				
教職専門科目		高等学校教諭一種免許状(情報)		

授業概要	生徒の情報化の進展に主体的に対応できる能力と態度の育成に向けて、情報及び情報技術を活用するための知識と技能の修得についての指導方法とともに、これらに対する興味関心、意欲の喚起、問題解決能力、創意工夫力などの育成についての指導方法を学習する。さらに、「社会と情報」、「情報の科学」の具体的な指導方法と、各科目の授業計画や各授業の構成について学習する。なお、受講者の状況によって、指導順序、指導内容を変更することがある。		
授業計画	第 1 回	小・中学校における情報教育の実態、および、共通教科情報科の目標と、それに沿った基本的な指導方法の解説 学習指導要領解説を参考にして、配布資料等の未記入部分を記入する。	
	第 2 回	コンピュータの発達とそれに伴う共通教科情報科関連の情報教育の進展及び海外の情報教育の解説 学習指導要領解説を参考にして、配布資料等の未記入部分を記入する。	
	第 3 回	共通教科情報科における生徒の関心・意欲・態度の育成 配布資料等を参考にして、関心・意欲・態度の具体的な育成方法を考案する。	
	第 4 回	共通教科情報科教育を効果的に進めるための指導計画、授業構成 学習指導要領解説、配布資料等を参考にして、指導計画を立案する。	
	第 5 回	共通教科情報科を効果的に進めるための教材・教具の開発と活用 学習指導要領解説、配布資料等を参考にして、教材・教具を立案する。	
	第 6 回	共通教科情報科における生徒の問題解決能力、創意工夫能力育成のための指導方法 学習指導要領解説、配布資料等を参考にして、指導計画を立案する。	
	第 7 回	共通教科情報科の学習指導案の構成と内容と実践例の解説 学習指導要領解説、配布資料等を参考にして、学習指導案を立案する。	
	第 8 回	共通教科情報科の学習指導案に関連した指導の工夫 学習指導要領解説、配布資料等を参考にして、学習指導案に沿った授業を練習する。	
	第 9 回	社会と情報の目標とその基本的な指導方法、指導計画について 学習指導要領解説、配布資料等を参考にして、指導計画を立案する。	
	第 1 0 回	情報の科学の目標とその基本的な指導方法、指導計画について 学習指導要領解説、配布資料等を参考にして、指導計画を立案する。	
	第 1 1 回	情報社会の課題と情報モラル：情報化が社会に及ぼす影響の指導内容と指導方法 学習指導要領解説、配布資料等を参考にして、指導計画を立案する。	
	第 1 2 回	情報社会の課題と情報モラル：情報セキュリティの確保の指導内容と指導方法 学習指導要領解説、配布資料等を参考にして、指導計画を立案する。	
	第 1 3 回	情報社会の課題と情報モラル：情報セキュリティの確保と情報社会における法と個人の責任についての指導内容と指導方法 学習指導要領解説、配布資料等を参考にして、指導計画を立案する。	
	第 1 4 回	共通教科情報科の学力構造と評価の基本：関心・意欲・態度、知識・理解、創意工夫の評価方法 学習指導要領解説、配布資料等を参考にして、評価計画を立案する。	
	第 1 5 回	共通教科情報科の学力構造と評価の実践例の解説と授業診断 授業内容を参考にして、教育実習での必要事項・内容をまとめる。	
準備学習の内容			
教育目標に対する科目の位置付け	共通教科情報科を指導するための教育的能力を養成する。		
教科書	文部科学省『高等学校学習指導要領解説 情報編』 など		
参考書	高等学校「情報」教科書 など		
評価基準及び成績評価方法	学習指導案等のレポートを評価し、60点以上を合格とする。学習態度なども参考にする。		
達成度の伝達及び達成度評価	レポートの評価結果を知らせる。評価に疑問がある学生に対してはレポートを示して説明する。		
資格情報			
オフィスアワー			
備考			
履修登録条件			

講義科目名称： 情報科教育法Ⅱ

英文科目名称： Information Education Methods 2

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	3 年次	2 単位	選択	講義
担当教員				
碓井健文				
教職専門科目		高等学校教諭一種免許状(情報)		

授業概要	情報化の進展に主体的に対応できる能力と態度の育成（情報処理技術者の育成）に向けて、現代社会における情報の意義や役割を理解し、情報の各分野に関する知識と技術を習得するとともに、各分野の授業計画や各授業の構成について学習する。指導に関わって、生徒の興味関心、意欲の喚起、問題解決能力、創意工夫力などの育成についての指導方法を学習する。さらに、課題研究の指導方法、実験・実習の教材・教具と具体的な指導方法について学習する。なお、受講者の状況によって、指導順序、指導内容を変更することがある。		
授業計画	第 1 回	専門教科情報科の目標と科目編成の理解及び改訂の内容と経緯 学習指導要領解説を参考にして、配布資料等の未記入部分を記入する。	
	第 2 回	「情報産業と社会」に関連して基礎的な知識と技術の内容とその指導方法情報産業への興味・関心の喚起の指導方法 学習指導要領解説、配布資料等を参考にして、具体的に興味・関心の喚起の指導方法を考案する。	
	第 3 回	情報産業と情報技術の指導の内容と指導方法 学習指導要領解説を参考にして、配布資料等の未記入部分を記入する。	
	第 4 回	情報産業と情報モラルの指導内容と指導方法 学習指導要領解説を参考にして、配布資料等の未記入部分を記入する。学習指導要領解説、配布資料等を参考にし て、具体的にモラルの指導方法を考案する。	
	第 5 回	情報の表現と管理の指導内容と指導方法指導事例研究 学習指導要領解説、配布資料等を参考にして、学習指導案を考案する。	
	第 6 回	情報と問題解決の指導内容と指導方法指導事例研究 学習指導要領解説、配布資料等を参考にして、学習指導案を考案する。	
	第 7 回	情報テクノロジーの指導内容と指導方法指導事例研究 学習指導要領解説、配布資料等を参考にして、学習指導案を考案する。	
	第 8 回	システム設計・管理分野のアルゴリズムとプログラムの指導内容と指導方法実習の事例研究 学習指導要領解説、配布資料等を参考にして、学習指導案を考案する。	
	第 9 回	システム設計・管理分野のネットワークシステムの指導内容と指導方法実習の事例研究 学習指導要領解説、配布資料等を参考にして、学習指導案を考案する。	
	第 1 0 回	システム設計・管理分野のデータベースの指導内容と指導方法実習の事例研究 学習指導要領解説、配布資料等を参考にして、学習指導案を考案する。	
	第 1 1 回	情報コンテンツの制作・発信分野の情報メディアの指導内容と指導方法実習の事例研究 学習指導要領解説、配布資料等を参考にして、学習指導案を考案する。	
	第 1 2 回	情報コンテンツの制作・発信分野の情報デザイン及び表現メディアの編集と表現の指導内容と指導方法実習の事例研 究 学習指導要領解説、配布資料等を参考にして、学習指導案を考案する。	
	第 1 3 回	課題研究の目標と内容の理解と基本的な指導方法課題研究（調査、研究、実験と作品の制作）の事例研究 学習指導要領解説、配布資料等を参考にして、学習指導案を考案する。	
	第 1 4 回	課題研究（産業現場等における実習、職業資格の取得）の事例研究 学習指導要領解説、配布資料等を参考にして、学習指導案を考案する。	
	第 1 5 回	専門教科情報科の学力構造と評価の実践例の解説と授業診断 授業内容を参考にして、教育実習での必要事項・内容をまとめる。	
準備学習の内容			
教育目標に対する 科目の位置付け	専門教科情報科を指導するための教育的能力を養成する。		
教科書	文部科学省『高等学校学習指導要領解説 情報編』 など		
参考書	高等学校「情報」教科書 など		
評価基準及び成績 評価方法	学習指導案等のレポートを評価し、60点以上を合格とする。学習態度なども参考にする。		
達成度の伝達及び 達成度評価	レポートの評価結果を知らせる。評価に疑問がある学生に対してはレポートを示して説明する。		
資格情報			
オフィスアワー			
備考			
履修登録条件			

講義科目名称：技術科教育法Ⅰ

英文科目名称：Methods of Technology Education 1

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期	2 年次	2 単位	選択	講義
担当教員				
池守滋				
教職専門科目		中学校教諭一種免許状（技術）		

授業概要	技術教育の変遷、義務教育の科目の一つとしての技術・家庭科教育の位置づけと役割について講義する。その上で、技術教育の理論、教育方法、教育課程の編成、具体的な題材をもとに技術教育の授業展開について学び、普通教育としての技術教育への理解を深める。		
授業計画	第1回	講義の概要 中学校における技術教育の位置づけ、普通教育としての技術教育について解説する。	
	第2 回	技術の歩みと技術教育 技術の歩みとそれが人類に果たした役割について解説し、討議する。	
	第3回	中学校の教育課程の編成と技術・家庭の教育 学習指導要領総則と教科、道徳、総合的な学習の時間、特別活動と技術・家庭	
	第4回	技術・家庭の目標 学習指導要領における技術・家庭の目標について解説する。	
	第5回	技術教育の変遷① 戦前の技術教育の成り立ちと手工科教育の誕生から盛衰について解説する。	
	第6回	技術教育の変遷② 戦後の技術教育の中学校に職業科から現在の技術・家庭科に至るまでの経過を解説する。	
	第7回	諸外国にみる技術教育① 欧米諸国における技術教育の歴史と現状について紹介する。	
	第8回	諸外国にみる技術教育② アジア諸国における技術教育の歴史と現状について紹介する。	
	第9回	技術教育の理論 普通教育としての技術教育という観点から、その位置づけ、役割、目標について解説し、ペスタロッチ、デューイなどの先人の業績を紹介する。	
	第10回	技術教育の方法 技術科教育には課題解決型の学習方法、プロジェクト法、オペレーション法、プログラム学習法などについて概説する。	
	第11回	技術家庭科〔技術分野〕の教育課程① 技術家庭科〔技術分野〕の年間指導計画の編成について、複数の案を提示して、解説する。	
	第12回	技術家庭科〔技術分野〕の教育課程② 技術家庭科〔技術分野〕と〔家庭分野〕、他教科との関連について解説する。	
	第13回	技術家庭科〔技術分野〕の題材と授業展開① 技術教育の方法と関連づけ、「材料と加工に関する技術」に関する題材を取り上げ、授業展開について解説する。	
	第14回	技術家庭科〔技術分野〕の題材と授業展開② 技術教育の方法と関連づけ、「エネルギー変換に関する技術」に関する題材を取り上げと授業展開について解説する。	
	第15回	技術教育のまとめ 中学校における技術教育の目的と役割を再考して、普通教育としての技術教育への理解を深める。	
準備学習の内容			
教育目標に対する科目の位置付け	1. 技術科教育の目標と内容を理解できる。 2. 学習指導要領「技術・家庭」の趣旨、目標、技術分野の内容を説明ができる。 3. 技術科教育における学習指導法に係る基礎理論が理解できる。		
教科書	中学校学習指導要領解説、技術・家庭編、文部科学省 検定教科書 中学校技術教科書、新しい技術・家庭 技術分野、東京書籍 検定教科書 中学校技術教科書、技術・家庭 技術分野、開隆堂		
参考書	日本産業技術教育学会技術科教育分科会：技術科教育の研究、朝倉書店 中央教育審議会答申		
評価基準及び成績評価方法	ペーパーテストと課題レポート		
達成度の伝達及び達成度評価			
資格情報			
オフィスアワー			
備考			
履修登録条件			

講義科目名称： 技術科教育法Ⅱ

英文科目名称： Methods of Technology Education 2

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	2 年次	2 単位	選択	講義
担当教員				
池守滋				
教職専門科目		中学校教諭一種免許状（技術）		

授業概要	中学校技術科の指導内容及び指導方法について具体的に学習する。		
授業計画	第1回	新しい時代の技術教育について 国の教育改革の方向と技術教育について理解を深める。	
	第2回	技術科に適した指導法① 主体的・対話的な指導方法について事例を通して理解する。	
	第3回	技術科に適した指導法② 生徒の主体性を高める指導方法などの演習を行う。	
	第4回	技術科に適した指導法③ 生徒同士の対話を通して理解を深める指導方法などの演習を行う。	
	第5回	技術分野の指導内容① 学習指導要領の「（Ａ）材料と加工に関する技術」の学習内容について理解する。	
	第6回	技術分野の指導内容② 学習指導要領の「（Ｂ）エネルギー変換に関する技術」の学習内容について理解する。	
	第7回	技術分野の指導内容③ 学習指導要領の「（Ｃ）生物育成に関する技術」の学習内容について理解する。	
	第8回	技術分野の指導内容④ 学習指導要領の「（Ｄ）情報に関する技術」の学習内容について理解する。	
	第9回	技術分野の指導内容⑤ 学習指導要領における配慮すべき事項や内容の取り扱いについて理解する。	
	第10回	学習指導と評価① 学習指導における評価、技術教育における技能の評価方法について理解する。	
	第11回	学習指導と評価② 各学習内容に関する観点別学習評価及び新しい評価方法について理解する。	
	第12回	学習指導の実際① ビデオを見て、実際の授業について理解を深める。	
	第13回	学習指導の実際② 学校現場からの講師の話を聞き理解を深める。	
	第14回	施設設備の安全管理① 技術室の施設設備の管理や安全指導について理解する。	
	第15回	施設設備の安全管理② 電気機器、農薬類、情報の管理について理解する。	
準備学習の内容	技術科教育法Ⅰを復習するとともに中学校学習指導要領を精読しておくこと。		
教育目標に対する 科目の位置付け	１．技術科教育における指導方法と指導内容を理解する。 ２．技術科教育における評価方法の基礎を習得する。 ３．技術科の施設設備と安全管理に関する基礎と方法を習得する。		
教科書	文部科学省、中学校学習指導要領解説 技術・家庭編、教育図書 検定教科書 中学校技術教科書、新しい技術・家庭 技術分野、東京書籍 検定教科書 中学校技術教科書、技術・家庭 技術分野、開隆堂		
参考書	授業において指示する。		
評価基準及び成績 評価方法	演習、課題レポート		
達成度の伝達及び 達成度評価	まとめレポートにて各自に示します。		
資格情報			
オフィスアワー	水曜日13：00～14：00 1号館5階研究室		
備考			
履修登録条件			

講義科目名称：技術科教育法Ⅲ

英文科目名称：Methods of Technology Education 3

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期	3 年次	2 単位	選択	講義
担当教員				
三田純義				
教職専門科目		中学校教諭一種免許状（技術）		

授業概要	技術教育においては、「材料と加工の関する技術」、「エネルギー変換に関する技術」、「生物育成に関する技術」、「情報に関する技術」のそれぞれの具体的な題材を核にして学習指導するので、題材を分析し、その指導方法について学ぶとともに、教材の作成について学ぶ。		
授業計画	第1回	技術科教育の学習指導で用いる題材の位置づけについて解説する。	
	第2回	作業分析法による題材の分析方法① 「材料と加工の関する技術」における木工作品の題材（棚）の製作に関して、作業分析法により、作業工程をもとに要素作業と工具、関連知識の分析について解説する。	
	第3回	作業分析法による題材の分析方法② 「材料と加工の関する技術」における木工作品の題材（棚）の製作に関して、作業分析表の作成について解説する。	
	第4回	作業分析法による題材の分析方法〔演習 1〕 「材料と加工の関する技術」における題材「ペン立て」の作業分析の演習。	
	第5回	作業分析法による題材の分析方法〔演習 2〕 「材料と加工の関する技術」における題材「ペン立て」の作業分析の演習	
	第6回	知識の構造化手法による題材の分析方法① 「エネルギー変換に関する技術」における題材「メカニズム」の製作に関して、知識の構造化手法により、学習要素を分析し、それらの関連をマップに表すことを解説する。	
	第7回	知識の構造化手法による題材の分析方法② 「エネルギー変換に関する技術」における題材「LEDスタンド」の製作に関して、知識の構造化手法により、学習要素を分析し、それらの関連をマップに表すことを解説する。	
	第8回	知識の構造化手法による題材の分析方法③ 「情報に関する技術」における題材「マルチメディア作品」の製作に関して、知識の構造化手法により、学習要素を分析し、それらの関連をマップに表すことを解説する。	
	第9回	知識の構造化手法による題材の分析方法〔演習①〕 「情報に関する技術」における題材「プログラムによる計測制御・自動車モデル制御」に関する学習要素の分析の演習	
	第10回	知識の構造化手法による題材の分析方法〔演習①〕 「情報に関する技術」における題材「プログラムによる計測制御・自動車モデル制御」に関する学習要素の関連マップ作成の演習	
	第11回	作成する教材・教具の課題の決定 受講生が作成する教材・教具の改題を決定する。	
	第12回	教材・教具の作成① 受講生が教材・教具の構想を練る。	
	第13回	教材・教具の作成② 受講生が教材・教具を作成する。	
	第14回	教材・教具の作成③ 受講生が教材・教具を作成し、教員の評価を受けて、改善する。	
	第15回	作成した教材・教具のプレゼンテーションと相互評価 受講生が作成した教材・教具を発表し、相互評価する。	
	第16回	作成した教材・教具の提出とまとめ	
準備学習の内容			
教育目標に対する科目の位置付け	授業の到達目標及びテーマ 1. 技術科教育の学習指導で用いる題材を構成する学習要素を分析できる。 2. 題材の学習要素の分析をもとに、題材のねらいと指導方法を明確にできる。 3. 題材やそれを指導するための教材を作成できる。		
教科書	中学校学習指導要領、中学校学習指導要領解説、技術・家庭編、文部科学省 検定教科書 中学校技術教科書、新しい技術・家庭 技術分野、東京書籍 検定教科書 中学校技術教科書、技術・家庭 技術分野、開隆堂		
参考書	日本産業技術教育学会技術科教育分科会：技術科教育の研究、朝倉書店 市川伸一：学習と教育の心理学、岩波書店 中央教育審議会答申		
評価基準及び成績 評価方法	教材作成に関する課題レポートとペーパーテスト		
達成度の伝達及び 達成度評価	レポートにコメントを付記して返却する。		

資格情報	
オフィスアワー	
備考	
履修登録条件	

講義科目名称：技術科教育法Ⅳ

英文科目名称：Methods of Technology Education 4

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	3 年次	2 単位	必修	講義
担当教員				
三田純義				
教職専門科目		中学校教諭一種免許状（技術）		

授業概要	技術科教育の実態と指導法について具体的に学習する。学習指導要領の改訂に伴う教育内容・方法の変化，絶対評価，生徒の問題行動等などについて扱う。		
授業計画	第1回	技術・家庭〔技術分野〕の学習指導計画、学習指導案、授業のあり方について解説する。	
	第2回	「技術・家庭科」（技術分野）の年間指導計画の立案 都道府県教育センター等のWebページを調査し、技術・家庭〔技術分野〕の3年間、87.5時間の内容（「材料と加工の関する技術」、「エネルギー変換に関する技術」、「生物育成に関する技術」と「情報に関する技術」）の指導計画を立案する。	
	第3回	技術・家庭〔技術分野〕の年間指導計画の検討 受講生が作成した技術・家庭〔技術分野〕の年間指導計画を相互評価する。	
	第4回	技術・家庭〔技術分野〕の年間指導計画の決定 本講義において模擬授業を実施することをねらいに、年間指導計画を決定する。	
	第5回	学習指導案の作成について解説 受講生は学習指導案を作成する解説する。 受講生は技術・家庭〔技術分野〕の4つの内容から、担当する内容を決定する。	
	第6回	学習指導案作成演習① 受講生は学習指導案を作成する。	
	第7回	学習指導案作成演習② 学習指導案を相互評価する。	
	第8回	学習指導案作成演習③ 学習指導案の相互評価結果をもとに指導案を修正し、模擬授業に備える。	
	第9回	第1回の模擬授業の実施① 模擬授業を実施し、教員の評価を受け、また、受講生が相互評価する。	
	第10回	第1回の模擬授業の実施② 模擬授業を実施し、教員の評価を受け、また、受講生が相互評価し、改善点を明確にする。	
	第11回	第1回の模擬授業の振り返り 授業にねらい、題材、教材、教具、指導展開、指導方法について討議する。	
	第12回	学習指導案の検討と提出 第1回の模擬授業を振り返って、考察し、学習指導案を見直し、修正して提出する。	
	第13回	第2回の模擬授業の実施① 模擬授業を実施し、教員の評価を受け、また、受講生が相互評価する。	
	第14回	第2回の模擬授業の実施② 模擬授業を実施し、教員の評価を受け、また、受講生が相互評価し改善点を明確にする。	
	第15回	第2回の模擬授業の振り返り 学習指導案と合わせて授業のねらい、題材、教材、教具、指導展開、指導方法について討議する。	
	第16回	学習指導案を提出し、授業について振り返る。	
	準備学習の内容		
教育目標に対する科目の位置付け	授業の到達目標及びテーマ 1. 「技術・家庭科」（技術分野）の年間指導計画を作成できる 2. 「技術・家庭科」（技術分野）の学習指導案を作成できる。 3. 模擬授業を計画し、実践できる。 4. 授業での評価の観点を理解し、実際に評価できる。		
教科書	中学校学習指導要領 文部科学省、中学校学習指導要領解説 技術・家庭編、教育図書 検定教科書 中学校技術教科書、新しい技術・家庭 技術分野、東京書籍 検定教科書 中学校技術教科書、技術・家庭 技術分野、開隆堂 北尾倫彦、山森光陽、鈴木秀幸、安東茂樹：観点別学習状況の評価規準と判定基準〔中学校技術・家庭〕、図書文化社		
参考書	国立政策研究所の公開資料 専攻の専門科目のテキスト		
評価基準及び成績評価方法	学習指導案とペーパーテスト		
達成度の伝達及び達成度評価	レポートにコメントを付記して返却する。		
資格情報			

オフィスアワー	
備考	
履修登録条件	

講義科目名称： 道徳の指導法

英文科目名称： Methods on Moral Education

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	2 年次	2 単位	選択	講義
担当教員				
中山和彦				
教職専門科目		中学校教諭一種免許状（技術）		

授業概要	中学校で実践されている指導計画、指導案、資料等を提示しながら、中学校における道徳教育について理論と実践の両面から講義を行う。また、中学校における道徳授業のあり方や指導案作成の手順と方法について段階的に学ぶことができるようにする。さらには、毎時間「リアクションカード」作成・提出を行い、学生の理解度を確認して次回の講義の指導法改善につなげる。さらには、特別の教科道徳についての基本的な考え方や『私たちの道徳』活用の仕方についても講義で扱い、学生の理解を深める。			
授業計画	第1回 オリエンテーション ・教育における「きく」について考える 第2回 道徳教育の歴史の変遷 ・道徳とは何かについて考える 第3回 道徳と法 ・道徳と倫理 ・道徳とは何かについて自分なりの考えをまとめる 第4回 道徳教育とは何か ・道徳性の正体を探る 第5回 昭和33年道徳実施要綱から道徳教育と道徳の時間の特質を学ぶ 第6回 改正学習指導要領における道徳教育の目標と内容を学ぶ 第7回 道徳の教科化（特別の教科道徳）について（その１） 第8回 道徳の教科化（特別の教科道徳）について（その２） 第9回 特別の教科道徳の目標と特質（その１） 第10回 特別の教科道徳の目標と特質（その２） 第11回 特別の教科道徳の目標と特質（その３） ・『私たちの道徳』の活用方法 第12回 道徳授業の指導案作成の手順と方法（その１） 第13回 道徳授業の指導案作成の手順と方法（その２）（個別指導） 第14回 作成した指導案をもとにした模擬授業実施 ・板書の基礎・基本（その１） 第15回 道徳授業に必要な指導技術 ・板書の基礎・基本（その２） ・講義全体のまとめ			
準備学習の内容				
教育目標に対する科目の位置付け	授業の到達目標及びテーマ 1 学校教育全体を通して行われる道徳教育の意義を理解できるようにする。 2 道徳教育の要となる道徳の時間の意義と役割を理解できるようになる。 3 特別の教科道徳の目標と特質について理解できるようになる。 4 道徳授業の指導法を学ぶことにより、その基本と応用について理解できるようになる			
教科書	学習指導要領が一部改正されたため、担当者が資料を作成し配付する。			
参考書	『私たちの道徳』（中学校）文部科学省			
評価基準及び成績評価方法	次のとおりとする。 1 定期試験点数 6 0 % 2 リアクションカードの記述内容 3 0 % （A 自身の考えが明確に記述 B 自身の考えが記述 C 講義内容のみ） 3 授業態度・発言 1 0 %			
達成度の伝達及び達成度評価	リアクションカードに記述内容についての評価を明示し、コメントを記入して学生に返却することで伝達する。			
資格情報				
オフィスアワー				
備考				

履修登録条件	
--------	--

講義科目名称： 特別活動の指導法

英文科目名称： Strategies for Teaching Special Activities

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	2 年次	2 単位	必修	講義
担当教員				
黒羽正見				
教職専門科目		高等学校教諭一種免許状(工業)	高等学校教諭一種免許状(情報)	中学校教諭一種免許状（技術）

授業概要	理論と実践の往還を図りながら、以下の通り、学校の特別活動を実践的に理解する。 1. 学校生活の基盤をなす特別活動を創る教師の在り方・生き方 2. 特別活動の目標や内容、各教科、道徳、総合的な学習の時間、生徒指導等とのかかわり 3. 学校における教育課程の編成、実施、評価の在り方 4. 特別活動の実際の指導の進め方 5. 家庭・学校・地域社会と特別活動の関係	
授業計画	第1回	オリエンテーション特別活動の学び方と学ぶ上での核となる概念の説明 学び合い、自己認識、気付きと振り返り、自己更新、教師としての成長
	第2回	教育課程（特別活動）の基盤にあるもの 特別活動の目標および内容とその指導の中核
	第3回	教師そして学級担任としてのクラス目標の持たせ方 「クラスのみなさん、こんにちは。」
	第4回	学校の特別活動における現代的課題とその解決方法 1枚の折り紙から紡ぎ出される方法とは何か。
	第5回	特別活動が生み出す文化の違い：係活動と委員会活動の相違点
	第6回	望ましい集団活動を通した学級文化の創造 谷川俊太郎「生きる」の群読体験より
	第7回	体験と特別活動：豊かな体験活動が生み出すもの 体験の意義と特質、そして集団活動の場の設定
	第8回	特別活動の全体的構想 学校における特別活動の仕組み、生徒指導、教科指導と特別活動
	第9回	特別活動の全体的構想 学校における特別活動の仕組み、総合的な学習、道徳教育と特別活動
	第10回	特別活動の指導方法：話し合い指導の効果的な工夫の在り方
	第11回	特別活動の指導方法：話し合い指導の効果的な工夫の在り方
	第12回	特別活動と学校経営：特別活動と学年・学級経営
	第13回	特別活動と学校経営 地域の特色を生かした特別活動と協力体制
	第14回	ビデオカンファレンス 「ザ・教師」のビデオ視聴からいじめ問題を考える
	第15回	ホームルームの構成者としての教師（まとめ） 生徒たちを前にして、学級担任として何を語るか
準備学習の内容		
教育目標に対する 科目の位置付け	カリキュラムの中での特別活動の意義と指導法を理解し、実践的指導力をつける。	
教科書	ナシ	
参考書	稲垣応顕・黒羽正見編『学際型現代学校教育概論』中学校学習指導要領解説（特別活動）	
評価基準及び成績 評価方法	①毎時間の課題に対する振り返りシートの内容、②課題レポート、③毎回の課題に対するグループの学び合いの意欲態度等を参考に する。総合点は①が30%、②が30%、③が40%である。	
達成度の伝達及び 達成度評価	第15回のまとめに、ホームルームの構成者としての「模擬授業」を行い、クラス担任として生徒との教育的関係が構築できるか否か で、達成度を見取る。	
資格情報		
オフィスアワー		
備考		
履修登録条件		

講義科目名称：教育の方法と技術

英文科目名称：Methods and Strategies of Teaching

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	2 年次	2 単位	必修	講義
担当教員				
久保田善彦				
教職専門科目		高等学校教諭一種免許状(工業)	高等学校教諭一種免許状(情報)	中学校教諭一種免許状（技術）

授業概要	ある人の知識を他の人に伝える。このような知識の伝達は、教育において当たり前に行われているが、実は非常に困難であり、不可能ともいえる行為である。しかしながら、教育に従事する者は、その工夫と研究により、困難を取り除き、不可能を可能としてきた。本講義では、これら工夫と研究により生み出された教育の方法と技術を、歴史や発展といった背景的知識および機能や役割といった理論的知識を踏まえつつ、体験的に修得していく。		
授業計画	第1回	学習とは何か ・アクティブラーニングと構成主義	
	第2回	教えることと学ぶこと ・小学校１年生の算数と国語から考える	
	第3回	思考を外に出そう（１） ・マップ型（概念地図、マインドマップ、イメージマップ） ・フィンランドの授業を体験しよう（カルタ）	
	第4回	思考を外に出そう（２） ・運勢ライン法	
	第5回	学習意欲	
	第6回	協調学習（１） ・知識構成型ジグソー学習法（おてがみ）	
	第7回	協調学習（２） ・知識構成型ジグソー学習法（雲のでき方）	
	第8回	協調学習（３） ・学びの共同体の基本構造	
	第9回	授業ビデオを見よう（１） ・ワークショップ型授業研究	
	第10回	授業ビデオを見よう（２） ・ワークショップ型授業研究	
	第11回	ワークシートを作製しよう	
	第12回	学習ゲームを作成しよう（１） ・環境ゲームのデザイン	
	第13回	学習ゲームを作成しよう（２） ・環境ゲームの製作と実施	
	第14回	子どもの作品を見取ろう ・真正な評価について（ポートフォリオ・パフォーマンス） ・子どもの作品を見取る	
	第15回	振り返りと議論	
準備学習の内容			
教育目標に対する 科目の位置付け	(1)知識伝達の困難性を適切に認識し、教育の方法と技術がいかなる目的をもって生み出されてきたかについて説明できる。 (2)機能や役割といった教育方法に関する基礎を体験的に理解した上で、教育方法に関連する応用的な課題群・問題群に自分なりの答えを導くことができる。		
教科書	特に指定しない。		
参考書	講義内で適宜紹介する。		
評価基準及び成績 評価方法	小テスト(40%)：講義内容について、各回小テストを行う。 定期試験(60%)：講義全体の内容について、試験を行う。		
達成度の伝達及び 達成度評価	小テスト、定期試験の解答例を受講学生に示す。		
資格情報			
オフィスアワー			
備考			
履修登録条件			

講義科目名称： 生徒・進路指導論

英文科目名称： Theory of Pupil Guidance

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期	2 年次	2 単位	選択	講義
担当教員				
森慶輔				
教職専門科目		高等学校教諭一種免許状(工業)	高等学校教諭一種免許状(情報)	中学校教諭一種免許状（技術）

授業概要	学校における生徒指導の意義、生徒指導の基礎を理解させるとともに、進路指導（キャリア教育）の意義について、生徒指導との関連の中で理解させる。		
授業計画	第1回	オリエンテーション	
	第2回	生徒指導の意義と課題 生徒指導提要の該当する部分を読んでおく。	
	第3回	生徒指導体制と生徒指導計画 生徒指導提要の該当する部分を読んでおく。	
	第4回	生活指導の展開―生活指導の類型と今日の課題 生徒指導提要の該当する部分を読んでおく。	
	第5回	生徒を取り巻く環境の変化と生徒指導 生徒指導提要の該当する部分を読んでおく。	
	第6回	生徒指導と教育相談 配布資料を読んでおく。	
	第7回	不登校・引きこもりへの指導援助（１）現状と背景 発表者はプレゼンテーションの準備をしておく。それ以外の学生は各種ホームページで不登校・引きこもりの現状を調べておく。	
	第8回	不登校・引きこもりへの指導援助（２）中学校 発表者はプレゼンテーションの準備をしておく。それ以外の学生は各種ホームページで中学校における不登校の現状を調べておく。	
	第9回	不登校・引きこもりへの指導援助（３）高等学校 発表者はプレゼンテーションの準備をしておく。それ以外の学生は各種ホームページで高等学校における不登校の現状を調べておく。	
	第10回	いじめへの指導援助（１）いじめをどう捉えるか 発表者はプレゼンテーションの準備をしておく。それ以外の学生は各種ホームページでいじめの定義を調べておく。	
	第11回	いじめへの指導援助（２）いじめの現状と背景 発表者はプレゼンテーションの準備をしておく。それ以外の学生は各種ホームページでいじめの現状を調べておく。	
	第12回	いじめへの指導援助（３）いじめへの対応 発表者はプレゼンテーションの準備をしておく。それ以外の学生は各種ホームページでいじめの対応策を調べておく。	
	第13回	進路指導・キャリア教育（１）中学校 文部科学省のホームページで中学校での進路指導を調べておく。	
	第14回	進路指導・キャリア教育（２）高等学校 文部科学省のホームページで高等学校での進路指導を調べておく。	
	第15回	まとめ	
準備学習の内容	授業計画に示した内容を準備しておく。		
教育目標に対する科目の位置付け	学校教育の教育課程（カリキュラム）のなかで生徒指導および進路指導についての理解と実践的指導力をつける。		
教科書	文部科学省「生徒指導提要」教育出版、２０１１年 本間友巳（編著）「学校臨床」金子書房、２０１２年		
参考書	講義の際に適宜指示する。		
評価基準及び成績評価方法	レポートまたは試験（５０％）と講義内での発表およびディスカッションへの参加態度（５０％）により評価する。		
達成度の伝達及び達成度評価	レポートまたは答案は迅速に返却する。		
資格情報			
オフィスアワー			
備考			
履修登録条件			

講義科目名称：教育相談

英文科目名称：Consultation in Education

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	2 年次	2 単位	必修	講義
担当教員				
森慶輔				
教職専門科目		高等学校教諭一種免許状(工業)	高等学校教諭一種免許状(情報)	中学校教諭一種免許状（技術）

授業概要	いじめ、不登校や児童虐待など、学校内外における児童生徒の諸問題は様々な形で現れており、対応する教師側の学校教育相談・教育臨床に関する知識、スキルの習得が求められている。本講義では、学校で行なわれる教育相談・教育臨床の機能、位置づけ、役割、方法などについて概略を説明し、さらに具体的課題として、不登校、いじめ、発達障害などのトピックスを取り上げ、教師の行なうべき対応方法や対策について理解を深めていくことを目指す。			
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 生徒指導と教育相談 生徒指導提要（文部科学省HPに掲載されている）に目を通しておく 第3回 教育相談の位置づけ、現状と課題 学校教育における教育相談の位置づけ、スクールカウンセラー制度について文部科学省ホームページなどで調べておく 第4回 教育相談の理論と実際 教育相談やカウンセリングなどの書籍に目を通しておく 第5回 暴力行為 発表者は準備をし、それ以外の受講者は教科書の該当箇所に目を通しておく 第6回 外国人児童生徒への対応 発表者は準備をし、それ以外の受講者は教科書の該当箇所に目を通しておく 第7回 児童虐待 発表者は準備をし、それ以外の受講者は教科書の該当箇所に目を通しておく 第8回 発達障害 発表者は準備をし、それ以外の受講者は教科書の該当箇所に目を通しておく 第9回 精神疾患 発表者は準備をし、それ以外の受講者は教科書の該当箇所に目を通しておく 第10回 性の課題 発表者は準備をし、それ以外の受講者は教科書の該当箇所に目を通しておく 第11回 保護者対応 発表者は準備をし、それ以外の受講者は教科書の該当箇所に目を通しておく 第12回 学校危機（緊急支援） 発表者は準備をし、それ以外の受講者は教科書の該当箇所に目を通しておく 第13回 外部講師講話（予定）「教師が行う教育相談」 今までの資料等に目を通しておく 第14回 外部講師講話（予定）「学外機関との連携」 今までの資料等に目を通しておく 第15回 まとめ 今までの資料等に目を通しておく			
準備学習の内容	授業計画に示した内容を準備しておく。			
教育目標に対する科目の位置付け	本科目は中学校教諭一種免許状（技術）、高等学校教諭一種免許状（工業、情報）取得のための必修科目として位置づけられている。そのため、受講生には将来教師として生徒指導、教育相談を行う上で必要最低限の知識技術を身につけることが求められる。			
教科書	文部科学省「生徒指導提要」教育出版、2011年 本間友巳（編著）「学校臨床 子どもをめぐる課題への視座と対応」金子書房、2012年			
参考書	講義内で適宜指示する。			
評価基準及び成績評価方法	1）授業内での課題発表をおおむね40％、レポートをおおむね60％として総合的に評価する。 2）科目の性質上、欠席や遅刻が目立つ、受講態度が芳しくないなど、教職を目指す上で不適格であると判断される場合は単位を認定しない。			
達成度の伝達及び達成度評価	授業内でそのつど伝達するように努める。			
資格情報				
オフィスアワー	1）教職課程を履修する以上は、将来教職に就くことを真剣に考えた上で受講されたい。 2）授業内で課題発表を行うが、自分の担当箇所の発表に責任を持って取り組むこと。（発表を無断で欠席する、など無責任な行為が認められた場合は単位を認定しない。）			
備考				
履修登録条件				

講義科目名称：教職実践演習（高）

英文科目名称：Comprehensive Seminar on Education

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	4 年次	2 単位	必修	演習
担当教員				
池守滋				
教職専門科目		高等学校教諭一種免許状(工業)	高等学校教諭一種免許状(情報)	

授業概要	教育実習の振り返りを行い、自身が担当した講義の課題を明確にし、それを克服するにはどのように講義を組み立て、進めればよいかを模擬授業を通じて学ぶ。 現代の中学校あるいは高等学校が抱える教育問題について文部科学省等の資料から理解を深め、その対応策について受講学生間のディスカッションを通じて考える。			
授業計画	第 1 回 ガイダンス（教育実習全般の振り返りと自己の課題の把握） 第 2 回 学習指導案の作成に関する検討 第 3 回 教材の作成と使用に関する検討 第 4 回 模擬授業の実施とディスカッション（機械系） 第 5 回 模擬授業の実施とディスカッション（電気系） 第 6 回 模擬授業の実施とディスカッション（建築・土木系） 第 7 回 模擬授業の実施とディスカッション（情報系） 第 8 回 模擬授業の実施とディスカッション（化学系） 第 9 回 学習指導に関するまとめ 第 10 回 不登校・中途退学に関する理解を深める 第 11 回 家庭問題に関する理解を深める 第 12 回 いじめ・暴力問題に関する理解を深める 第 13 回 学力問題に関する理解を深める 第 14 回 教師をめぐる問題に関する理解を深める 第 15 回 まとめ			
準備学習の内容				
教育目標に対する科目の位置付け	4 年間の教職課程の最終段階として、また教育実習の成果を踏まえ、教員となるために必要な知識技能を修得したことを再確認し、さらに、補完が必要な部分を補い、教師としての資質の向上を図る。			
教科書	必要な資料をコピーして配布する。			
参考書	必要に応じて紹介する。			
評価基準及び成績評価方法	授業への取り組みとディスカッションの内容で評価する。ただし、模擬授業を最低 1 回行っていることを単位認定の条件とする。			
達成度の伝達及び達成度評価	授業中の発表に対するコメントなどを通じて随時行う。 最終的にはレポート評価点をもって達成度の伝達を行う。			
資格情報				
オフィスアワー	・教員の連携・協力体制 教職課程専任教員が問題提起を担当し、教育現場での実例などについては附属高等学校の教員から現場報告の形をとって報告してもらい、考察の材料とする。また、教科に関する科目の担当教員をはじめ、OB 教員等から実践的な教育手法について指導を受ける。 ・授業の到達目標及びテーマ 教職課程の最終科目として、4 年次前期の教育実習での経験をふまえ、自身の課題を明確にしつつ、それを克服するための方策を検討する。将来教壇に立ち、学習指導・生徒指導がスムーズに実施できるようにすることが到達目標である。			
備考				
履修登録条件				

講義科目名称：教育実習

英文科目名称：Teaching Practice

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
通年	4 年次	3 単位	必修	実習
担当教員				
池守滋，森慶輔				
教職専門科目		高等学校教諭一種免許状(工業)	高等学校教諭一種免許状(情報)	

授業概要	「教育実習」は、教職課程の必修かつ総仕上げとして置かれている。教職を志す学生は、実際に学校現場において教科指導（授業）、生徒指導、学級担任など、教師の仕事を自ら体験することにより、教職の重要性とともに大変さも痛感することであろう。そうした経験によって教師としての資質を身につけていくことになる。なお教育実習の単位のなかには、2週間にわたる実習校での実習のほか、大学での事前指導（オリエンテーション）及び事後指導（反省会）も含まれる。		
授業計画	第1回	事前指導：教育実習の意義	
	第2回	事前指導：教育実習に際して諸注意	
	第3回	事前指導：教科指導の研究（板書計画、補助教材等の作成）	
	第4回	事前指導：教科指導の研究（学習指導案の作成）	
	第5回	事前指導：教科指導の研究（模擬授業）	
	第6回	事後指導：教育実習反省会（実習を終えての感想と討議）	
	第7回	事後指導：教育実習反省会（実習を終えての感想と討議）	
	第8回	事後指導：教育実習反省会（実習を終えての感想と討議）	
準備学習の内容			
教育目標に対する科目の位置付け	教育実習は、教職課程や専門課程等の履修によって身につけたものを、それぞれの教育実習校で、自ら教師としての仕事（学習指導、生徒指導、学級経営など）を経験することにより教師としての実践的力量、資質を養うものである。		
教科書			
参考書			
評価基準及び成績評価方法	基本的には教育実習校における評価に基づく。事前指導・事後指導への出席状況も参考に大学として最終評価をする。		
達成度の伝達及び達成度評価			
資格情報			
オフィスアワー			
備考	教育実習は、教職科目のうち4年次におこなうもので、実習校における教職の実験経験である。当然、教師としての自覚と責任が求められる。事前指導に加え、平成22年度より、個別面談をおこない、履修状況や教育実習に際しての心構えなどについて確認をおこなっている。		
履修登録条件			